

伊丹ルーテル教会 宗教改革主日礼拝

2020年10月25日

前奏：

招きのことば：詩編46編2-4節

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。

苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。

わたしたちは決して恐れない 地が姿を変え 山々が揺らいで海の中に移るとも
海の水が騒ぎ、沸き返り その高ぶるさまに山々が震えるとも。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

過ぐる一週間も、私たちとともにいて、日々の必要を満たし、あなたの御名のみさかえのために歩ませてくださいました。そして今朝、御前に集う私たちを、あなたは真理の光で照らしてくださいます。私たちが自分で自分を変えることができない、罪の奴隷であることに気づかせてくださいます。また、その私のために、御子イエス様が十字架で死んでよみがえってくださった真理にあずからせてくださいます。今朝も私たちの名前をよんで、あなたの恵みの御座に呼び出してください、ともに罪の赦しと新しいいのちにあずかる礼拝へと導いてくださいました。心から感謝をいたします。

自分で解決できないいろいろな問題も、イエス様におゆだねすることができることをありがとうございます。家庭で、社会で、そして教会で、それぞれがいただいている使命に、今週も心をこめて歩みます。苦しいことがあります。その中でこれまで見ていなかった神様の愛と導きに気づかせていただき、新しい力に導かれて歩んでまいります。

主よ、今週も私たちを導いてください。私たちの教会を、互いに愛し合い、高めあっていく交わりとして続いてお育てください。新型コロナ・ウィルスの感染は縮小の気配がありません。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 3章 19-28節

さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。

では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 8章 31-36節

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」すると、彼らは言った。「わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。」イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。

讃美歌 273A 番

- 1 わがたましいを 愛するイエスよ、波はさかまき 風ふきあれて、
沈むばかりの この身を守り、天(あめ)のみなとに みちびきたまえ。
- 2 われには外(ほか)の 隠れ家あらず、頼るかたなき このたましいを
委ねまつれば、みいつくしみの つばさの陰に 守らせたまえ。
- 3 わが身は全く けがれに染めど、君はまことと めぐみに満ちて、
われの内(うち)を ことごとく潔め つかれし霊(たま)を 慰めたまわん。
- 4 きみはいのちの みなもとなれば、たえず湧きいで ところに溢れ、
我をうるおし、渴きをとどめ、とこしえまでも やすきをたまえ。 アーメン

説教：「真理はあなたがたを自由にする」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

ほんとうの自由とは何でしょうか。真理はあなたがたを自由にする、ということばは魅力的なことばですね。これを少し変えた、真理が我らを自由にする、という言葉は東京の国会図書館の二階にギリシャ語と日本語で書かれています。真実が自由で文化的な国家の建設の土台になる、という意味ですね。同じ言葉が「国立国会図書館法」の前文にも載っています。

今日は宗教改革主日といって、マルティン・ルターの宗教改革にはじまる大きな運動を記念した日曜日です。修道士マルティン・ルターが1517年10月31日に、ウィッテンベルクにあった教会の扉に95箇条の提題をはりだしたことを記念します。イエス・キリストによる自由を与える運動で、1520年にルターは現代まで読み継がれている「キリスト者の自由」という書物を著しました。

今日は聖書のみ言葉から、イエス様が私たちに与えてくださる自由についてお聞きください。真理はあなたがたを自由にします、これはヨハネの福音書8章32節に記されているイエス・キリストのことばです。イエス様は同じヨハネの福音書の14章6節で、「わたしは道であり、真理であり、命である」と言われました。ですから、真理があなたがたを自由にする、というのは、イエス様があなたを自由にする、という意味です。

これを聞いていた当時のユダヤ人はイエス様に、自分たちは信仰の父アブラハムの子孫なので、すからどの国の捕虜にも奴隷にもなっていません、自由です、と答えました。彼らはイエス様のおっしゃっていることがよくわからなかったようですね。ではいったいイエス様のおっしゃっている自由とはどんな自由だったのでしょうか。

実はユダヤ人の答えは正確なものではありませんでした。その昔400年もの間、西の国エジプトの奴隷となっていました。神さまはモーセを用いました。民はエジプトから脱出することができました。脱出先のカナンの地でダビデ王が当時の最大の王国を建て上げましたが、その後北の国バビロン帝国に滅ぼされて民の多くが故郷から移送されてしまいました。何世代かたつてから民はこのカナンの地に帰ってきましたがローマ帝国の支配を受けて属国となっていました。

多くの人はいだれにも束縛されずに自分の思いのままに生きることが自由だと思っています。けれども外からの束縛はなくても心の中で罪の束縛を受けて不自由になっていることが問題なのです。ですからイエス様はユダヤ人の答えにあった矛盾を指摘せず、むしろ「罪をおかすものはだれでも罪の奴隷です」と言われました。その意味は、罪を犯すことによって人はかえって自分が罪に支配されて不自由になっている、ということです。

罪、というのは、神さまを愛さず、人々を大切にしない、自分中心な性質のことです。奴隷、というと、日本では会う機会がありませんが、手かせ足かせをつけられて、主人の命じるままに従わなければむち打ちの虐待が待っている、というようなイメージでしょうか、しかし、イエス様がおっしゃる罪の奴隷とは、自分の思いや言葉や行いが罪に支配されて自分の思い通りにならなくなっていることです。その結果、自分ではやめようと思っている悪いことをやってしまう、しようと思っている良いことができないという、自分で自分を変えることができない者になっているということです。

真理はあなたがたを自由にします、とイエス様は言われました。第1の真理は、自分自身が罪の奴隷である、ということです。わたしは罪に縛られ捕えられている、という自覚です。私たちに必要なのは罪の赦しと新しいいのちが必要なのです。

礼拝のはじめに「罪の悔い改めと赦しのことば」がありますね。私たちは生まれた時から罪に満ちています。自分中心でわがままです、と告白します。どんなことがあってもいつも神さまの愛を信じ信頼することは難しいですね。自分を愛してくれる人がいてくださると心地よい気持ちですが、自分を憎むものを私が赦し、また愛するということはとても難しいですね。そこに真理があります。自分はまだ自由ではなかった、自分は罪に縛られている、だから赦されることと新しいのちをいただくことが祈りとなります。自分で自分を自由にすることはできないからです。神さま、どうぞこんな私をあわれんでください、という自覚と悔い改めが生まれます。

そして赦しのことばを聞きます。なんでもおできになる神さまはあなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死にわたしていただきました。あなたはイエス様の故に、あなたの罪は赦されました、ということばを聞きました。これがもう一つの真理です。イエス様が十字架で死んでくださったのは、あなたを縛るすべての罪を担って、あなたの代わりに死んでくださったのです。だから神さまはあなたの罪を裁くことはもうありません。あなたは罪の力から解放されました。

父と御子と聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました、と牧師は宣言します。神さまが私に父と御子と聖霊のお名前によって洗礼をさずけてくださると、私たちは真理であるイエス様とひとつにさせていただきます。イエス様が罪の奴隷である私のために、ご自分を犠牲にして十字架の上で死んでくださったことにひとつにしてください。また、三日目に墓からよみがえってくださった新しいのちとひとつにしてください。私は罪深い自分を自分の決心や自己鍛錬で変えることができませんが、洗礼によってその罪の性質にイエス様とともに死んだのです。そして同じ洗礼によってイエス様が三日目によみがえってくださったあののちにあずかります。私も新しい自分として生まれ、すすんで神様を愛し、すすんで隣人を愛する新しい心を神さまに与えられたのです。赦しのことばの中に、洗礼によって私たちが受ける神さまのみわざ、神さまの恵みが宣言されています。そして私たちは毎週、罪の悔い改めをし、赦しのことばを聞くために礼拝に集っています。

考えてみてください。これは素晴らしいことではないでしょうか。自分の罪に気が付かないで、自分中心に生きているために、私たちはいろいろな問題にぶつかって悩みます。神さま以外のものを愛して、信頼しているからです。神さま以外のものを失うのを恐れています。自分が神さまに大切にされていることも、人々の幸せを願うこともわからないまま、自分の幸せを優先してわがままに生きています。そんな現実に対して私たちは思い通りにならなくていらしたり、絶望したりするしかありません。そんな私を愛して、私のためにすすんでイエス様が十字架で死んでくださいました。三日目によみがえっていただきました。それは私に罪の赦し

と新しいいのちを与える目的でした。赦しのことばを聞き、洗礼の恵みにあずかって、私たちはイエス様の故に罪から自由にされます。人からだまされて被害を受けないように自分の身を自分で守らなければならない、といつもどこか緊張していなくても、神さまが最善に導いてくださることを信頼して自分を磨いて人々の幸せのために自由に、創造的に工夫して生きることができるとは、人間としてなんとすばらしいことでしょうか。真理はあなたがたを自由にします。イエス様が与えてくださるのはこんな自由です。

マルティン・ルターは16世紀の宗教改革者です。ルターは、聖書のみ、恵みのみ、信仰のみ、ということ強く主張したと言われます。イエス・キリストのことばにとどまることが大切なので、自分の国のことばで聖書が読めるようにしました。礼拝で聖書のことばが語られるように、説教の時間を大切にしました。私たちは自分の努力や精進で罪を赦されるのではなく、そうしたくてもできない罪びとである私を神さまがイエス様によって赦そうとしてくださる恵みをただ信頼することで、罪が赦されることをあらためて明確に教えました。真理であるイエス様がわたしたちを自由にすることが宗教改革の明確なメッセージです。

人生のいろいろな問題に悩まされるとき、少し落ち着いてイエス様の御手におゆだねしましょう。激しい心、暗い心で見ていた自分の問題が、真理の光に照らされてよく見えるようになります。そして、神さまはイエス様によってあなたの罪を赦し、あなたを新しい人につくりかえてくださいます。これまで自分の足りなさがあったらそれを素直に認める心が与えられます。自分にできる正しいことがあったらそのために苦労をいとわずにあたることができる心が与えられます。

もしも子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由です、とイエス様は言われました。子、というのは神の子イエス様のことですから、ご自分を指しておっしゃっています。イエス様のことばを聞いたユダヤ人たちにはそれまで自分の罪が見えなかったようですが、イエス様は彼らを、そして私たちを罪の悔い改めへと導いてくださいます。そして、私たちの罪を赦して、新しいいのちを与えてくださいます。イエス様が私たちを罪から自由にしてください。今朝もイエス様のことばにとどまって、新しい一週間を始めさせていただきます。あなた自身がかえられて、神さまと隣人を愛する喜びと工夫に満ちた一週間が始まります。あなたの心に残っている罪深い思いに気づかせていただいたら、そのときこそ自分で自分を変えようとするのではなく、イエス様のことばにとどまって、イエス様におゆだねしましょう。そして、日本中の人々が国会図書館に掲げられていることばの意味を知って、真理は我らを自由にすると告白できるようになる日を待ち望みましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 267 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 神はわがやぐら、わが強き盾、苦しめるときの、近きたすけぞ。
おのが力 おのが知恵を たのみとせる 陰府(よみ)の長(おさ)も などおそるべき。
- 2 **いかに強くとも いかでか頼まん、やがては朽つべき 人のちからを。**
われと共に 戦いたもう イエス君こそ 万軍の主なる あまつ大神(おおかみ)。
- 3 悪魔 世にみちて よしおどすとも、神の真理(まこと)こそ わが内にあれ。
陰府(よみ)の長(おさ)よ ほえ猛りて 迫り来とも、主のさばきは 汝(な)がうえにあり。
- 4 **暗きのちからの よし防ぐとも、主のみことばこそ 進みにすすめ。**
わが命も わが宝も とらばとりね、神のくには なお我にあり。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスのめぐみよ、父の愛よ、御霊の力よ、あみさかえよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏